

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

May 2017

Écoutez Bien Vol.35 No.390

5

ロバート・キャンベルさんが立川に!

表紙の人 五月の風 ファーレ二十年の月日(曙町)



続・砂川深層 ⑤

あれから54年、 立川と砂川合併のお話 [1]

案内人：豊泉喜一氏

昭和38(1963)年5月1日、立川市と砂川町が合併してから今年で54年になる。半世紀を経過した今では、それぞれが別の街であったということを意識する人も少なくなってきた。合併当時92,697人であった人口も、現在は18万人を超え、ほぼ倍増して今や多摩の中核都市としての役割を担うようになった。そこでそもそも立川と砂川は、どのような経過で合併することになったのか、この機会にふり返ってみたいと思う。

立川は昭和15(1940)年、三多摩地域では八王子に続いて二番目に市政を施行した。市域はわずか8.85km²。市域は全国で二番目に狭いと言われ、その上、街の中央部に広大な飛行場と関連施設が在って、発展の余地が少なく早くから周辺の町村との合併が模索されていた。そこで市議会では先ず、昭和町、拝島町、砂川村、国立町に合併を呼びかけることになり、昭和29年3月、東隣の国立町に合併の申し入れを行った。国立町は一橋大学をはじめ学校施設が多くあることから文教都市を標榜しており、一部住民から「競輪の収益で市政を賄っているような町は相応しくない」と合併反対の声が上がり、結局成立しなかった。

二度目の合併交渉は、昭和33年2月。その2年前に拝島村と合併したばかりの昭島市に合併を申し入れ、両市で合併合同委員会なども設置されて数度の協議が行われたが、同年12月、「早期合併は不可能」との結論となり、またも頓挫してしまった。

三度目は、昭和36年6月に立川市議会に新市建設促進特別委員会が設置され昭島市、砂川町、村山町との合併が検討され、先ず同年7月、砂川町に市議会議長と合併促進特別委員会正副委員長が合併について正式申し入れを行った。しかし砂川町は、昭和30年5月に全国的に注目を集めた激しい基地拡張反対運動が行われており、町政は反対派と条件派が対立したまま膠着状態であったこともあり、10月「時期尚早につき今後逐次検討する」と回答した。

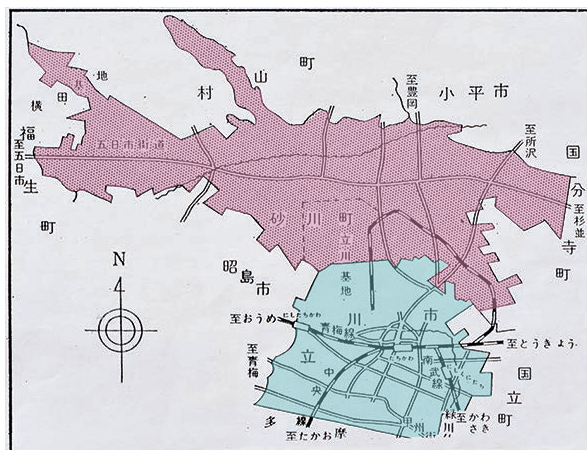
この頃立川市議会では、南側の日野市との合併を進めるべきとの意見が強まり、時期をみて交渉を進めるべきとの意見が高まった。しかしこの頃立川市議会では、議長選挙を巡って汚職事件が発生しリコール運動が起こり、一度は不成立だったこの運動も、二度目のリコールが成立して議会が解散、新しく選出された市議会が成立し、引き続き合併交渉は継続された。(以下次号)



昭和三十年、立川基地の拡張計画発表と同時に始まった砂川闘争。基地拡張に反対する住民と頭上を飛ぶ米軍輸送機。(写真：立川市歴史民俗資料館)



支援団体(写真：立川市歴史民俗資料館)



合併当時の立川市と砂川町 資料：豊泉喜一氏

こんにちは、新・館長!

国文学研究資料館に新しく赴任されたキャンベルさん

初対面の挨拶が終わるとすぐに「マレガ文庫」の話に。

「マレガ文庫」の話題は、昨年掲載の大友先生、先月掲載の山下先生に続く3回目。

改めて「マレガ文庫」の大事を知った。

マレガ文庫との出会い

1996年2月、当時私は国文研の助教授でした。パチカンにある日本の書籍の調査の調査中、本当に廊下の立ち話です。東欧出身の図書館サービス係の先生から、「サレジオ大学の神父が『サレジオ図書館によくわからない東洋の本がたくさんある』と言っていた。たまたまここに彼がいるから話を聞かないか?」と言われたのです。パチカンの大理石の廊下での、この立ち話からすべては始まりました。僥倖ですね。それからいくつもの螺旋階段のように、繋がって、繋がってやっと実を結びました。

オリバーレス神父というサレジオ図書館長から、とにかく蔵書は茶色い包紙と紐でくっのまま書庫のなかに収めてあります、時間が有れば見てやってくださいと英語で言われました。嗅

覚といいますか、あ、これは相当な量だろうなということを感じましたので、パチカンの準備調査の方は早々と切り上げて、翌日4人でローマ郊外にタクシーを走らせてサレジオ図書館にうかがいました。図書館長が待ち受けてくださって案内されるままに行くと、地下の書架にたくさん、とにかくたくさん本が包まれたまま眠るようにあったわけです。洋書なのか和装本なのか、それもわからない。ではこの包装紙を取らせてくださいと。私たちの調査とは物を扱うことが中心なので、物を扱うことに慣れてはいるのですが、それでも最初から紐を切って包み紙を取る、つまり荷解きからというのは新鮮な経験でした。

開くと洋装本は一冊もない。全部江戸時代と

明治時代の和装本でした。図書館長の話から、この蔵書の持ち主がマリオ・マレガという人だとわかりました。まだ「マレガ文庫」という名前すらない、その時にこの膨大なマレガさんの蔵書調査をすると急遽決めて、イタリア滞在の残りの時間をそこに当てることにしたのです。

具体的な最初の作業

マレガさんの蔵書を、とにかくすべて荷解きしました。これは、早い話が神経衰弱です。泣き別れしている本を探し出す。和装本は書型(大きさ)によって4つか5つの山にすると整理の3割くらいはできたことになります。大本、半紙本、中本、小本、横本などとあって、その形や大きさでどういう性質の本かということがわかります。大本ばかりだと非常に学問的であったり歴史書であったり、一言でいうと「硬い本」です。小ぶりの本が多くなればなるほど、どちらかというと「柔らかい」、通俗的な本ですね。

ロバート キャンベル氏

ニューヨーク生まれ。日本文学者。カリフォルニア大学パークレー校、ハーバード大学大学院を経て来日。九州大学に留学、1987年九州大学文学部国語国文学研究室専任講師、1995年国文学研究資料館助教授、2000年東京大学助教授、2007年東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻比較文学比較文化研究室教授。2017年4月より国文学研究資料館館長。

メディアなどで他流試合をすることはとても大切なことと言い、今後は地元との連携を大事に立川の水にも少しづつ慣れていきたいと話す。「立川には農家があるでしょう?国文研と農家とで何かコラボできないでしょうか」と、自らが審査員となって「奈良遺産」に認定された奈良県のお土産品「奈良漬サブレ」の話してくれた。とっても「うまい」のだそうだ。

その山分けをひたすらやって、山ができたところで泣き別れを一緒にしていきます。整理をしたとしても端本がでてくる。もともと端本であったもの、取り合わせ本…。それらを改めて組み合わせたりしました。

帰国してからその後のプランを練り直し、「マレガ文庫」として全部整理し目録を作って、サレジオ大学だけでなくEU全体がその本を活用できるような情報整理をして差し上げました。カトリック系の大学はやはりすごいなと思ったのは、最初からこの「マレガ文庫」をどう保存すべきか、保存の仕方を教えてくださいと言ったことです。意識が高いです。彼らは洋書についてはエキスパートでも、和装本はまったく要領が異なります。和装本は縦にして自立させようとする柔らかくて、糸で綴じてありますからしなったり、自重で形が変形したり糸が切れたりします。だから山積みにする。でも積んでしまうと内容がわからない。そこで帙を作ろうということになり、受け入れていただきました。日本から帙を持ち込み、イタリア人の職人さんに1年間預けてサンプルを作ってもらって、ちょっとダメでしたりして(笑)。結果、すごくいいモノができたんですよ。こはぜは特殊なものですから、そこはローカルな工夫をしてマジックテープのようなもので止めていました。ちゃんと中性紙を使って、本を守るように全点作りました。

皆さんにお願いしたいこと

国文研では、蔵書を単に1点1点がどのような価値を持っているかに限らず、堆積したままりとして、時代の大切な証言者と考えています。集めた人の意志・作られた時代や場所を記録し検証することで、書物がどういう履歴をもってどのように伝わり、流布し、人々の間で使われていたか、読まれていたかというひとつの大切な証言になるのです。

フランスでは田舎でも好きで本をたくさん集める人がいる。亡くなる時にその蔵書が引き継がれるのですが、昔であれば税の対象である財産として登録しなければならない。蔵書の数やタイトル、つまり目録を役所に届けます。それらの膨大な記録は、歴史資料になっています。フランスの読書文化はフランスの歴史の中で非常に重要な地位を占めていて、識字率ですとか階級、所得と読まれていた本の関係、どのように情報が社会の中で流布していったか、こういったことが公文書からいろいろ分析することができるのです。でも、日本の場合は必ずしも記録が作られるわけではありません。代替わりするときに継承されることもあれば、散逸してしまうこともある。そこで皆さんにお願いしたいことは、故人の蔵書を手放してしまう前にエクセル表が何かでリストを作って頂きたい。そしてその遺された方がどういう人で、いつからいつまで生きておられどういう仕事をされていたかということリストと一緒に保存し

てほしいのです。これは特別な方だけでなく、一般市民の方もです。立川は都心に比べるとまだ古くからお住まいの方も多いと思います。蔵の中とか、屋根裏とか、蔵書のリストをぜひお願いしたいですね。マレガ文庫も同じです。マレガ文庫の目録と一緒に、マレガさんが誰であるかと言う伝記といいますか、私を書いた略伝と一緒に保存されています。

切支丹資料

マレガさんが何者であるかということ。ローマ法王の指示で戦前から日本に来ていたこと、東京・碑文谷にあるサレジオ教会を実際に立ち上げた方であること、最期は老齢になり飛行機に乘せられてローマへ帰りサレジオ教会の同胞に介抱されて亡くなったということはわかりました。肝心なのはマレガさんが何をしたかということです。大分県に長くいらして、古文書を、特に切支丹史料をたくさん集められ、マレガさんが編集し全部日本語で書かれた史料集「豊後切支丹史料」「続豊後切支丹史料」を発行していることがわかったのです。史料集が出せるということはどこかに切支丹史料があるということ。ローマで碑文谷の図書館に本が残っていると聞いていたので、山下則子先生と一緒に碑文谷にうかがいました。行ってみると、沢山の和装本が残っていて、私たちは2回ほど調査をしたのですが、その調査の最中にいろいろな事情があってそれらの書籍が全部梱包されてローマに返されたのです。その後、「豊後切支丹史料」の元になった史料が実はパチカン図書館にあることがわかり、今国文研で主導しているパチカンとの共同研究ができたのです。

今サレジオ図書館にマレガさんの文庫があって貴重書扱いになっていますが、この業績で私たちはローマ法王からメダルをもらいました。時間はかかりましたが、国文研の仕事がいい意味で本当のコラボレーション、国際研究のネットワーク作りになったと思います。

国文研の館長として

国文研は設立以来45年以上、世界に類をみない事業を展開しています。その国の言語で書かれた文芸すべてを100年かけても、それらが物としてどこにあり、どういう状態にあるのかということのフィジカルな調査をし、実物も集め、画像として悉皆収集しています。日本津々浦々すべてを集めてアーカイブ化し、そこからが大切ですが、活用する。その活用を振行させることが、当館の使命なのです。フランスにもイギリスにもアメリカにも、こういう機関はありません。国文研が創設された背景には戦争があり、物は破壊される、精神や知恵、文化というものが物としていかに脆弱であるかということを知り尽くした方々がいらして、日本列島にどんなことが起きても日本語の中で蓄積された素晴らしい人間の知恵は残さなければならな

いという、非常に強い、衝動にも近い思いを持っていらしたのだと思います。

けれども、私の目から見ると保存された物が十分に活用されていない。ですから、1つには地道に館の事業に協力してくれている全国、全世界の日本文学研究者や大学院生たちの汗の結晶として収集したデータや画像、人的ネットワークが今の世界や社会に、どういう新たな知恵や文化と連携し創造をもたらすのか、もたらし得るのか。私はそこがこれから検討され、実現されていく、いくべき、いかざるを得ないと思っています。国文研は日本文学という非常に重要な基礎学の、さらに最も重要な「神経」が集まっている場所です。そこから豊富な知恵を汲み取ってもらえる人たちが無数にあるはず。ところが今はごく限られています。私は個人的には、文学以外の活動や団体にも橋渡しをしていきたいと思っています。

今西館長時代に大型プロジェクトを始めています。非常に先端的で重要なネットワーク事業をしていて、これは絶対にやり遂げなければならぬ。30万点のデータ公開を目標していますが、ただ公開しただけでは日本人の99%はこの画像公開の意味を汲み取ることはできません。日本の古典には、実は1つの作品の両隣、向い側には素晴らしい作品、ストーリー、人物が無数にあるのです。例えば私たちが出会う妖怪ですと、おそらく私たちは全妖怪の1/100くらいとしか知り合っていません。もっとたくさんの面白い妖怪が古典籍の中に身を潜めているのです。それらを現代語にし、そこから英語や韓国語などに翻訳すると、初めてそれらが世に知られ歩き始めます。川上をそれぞれの時代の文献資料だとします。川下の出口のところは何になるか。それはITの現代ですから、初音ミクのようなコンテンツにも繋がっていきます。そんなコラボレーションで、日本の古典を活きたものとして新たな形、発想として繋げていきたい。国文研自体で全部やるというよりも、その滑走路あるいは発射台になればと思っています。

ではそれをどんな風に現実化、持続化するか。古典インプリタという資格を考えています。西洋文学の専門家であれば、フランス語の小説を日本語に訳す。それは業績になります。就職する時も助成金を得る時もそれは認められます。でも、中世や江戸時代の研究者が古典籍を現代人が読めるように調べても、それは業績にならないのです。科学インプリタという資格があるように、古典インプリタを大学や一般社会で認められる1つの職能にしていきたいと思っています。無尽蔵にある古典の文化資本を活用するために必要なものだと思います。日本人であれば誰でもできると思われるかもしれませんが、そんなことはなくて、長年の訓練が必要です。生の古典をどう理解し、人々に伝えていくか、その端緒をみんなで一緒に作ることでできたらいいなと思っています。

人生は『一期一会』の連続

～燦然と輝く未来を見据えこのときを生きる青年であれ～

公益社団法人立川青年会議所

第53代理事長

岡部栄一さん

若きリーダーのこの半年

本年1月11日。第53代理事長 岡部栄一さんは賀詞交歓会でこう挨拶した。

「一期一会」のこの一瞬を生きる。「一期一会」とは、千利休の「茶会に臨む際は、その機会を一生に一度のものと心得て、主客とともに互いに誠意を尽くせ」といった教えからきた言葉です。私は、「一期一会」というこの漢字4文字の言葉の中に、古来より受け継がれてきた日本人としてのアイデンティティと、自己の利益を考える「自利」のみではなく、他者に想いを馳せる「利他」の精神を併せ持った、日本人の「和の心」が詰まっていると考えます。

「一期一会」の機会を逃して後悔した経験が2度あると語り、「一期一会」とは、まさにこの一瞬一時をいかに大切に考え、他者を思いやり生きていけるかということだと。今の時代になぜ生を享け、なぜこの時代を生きているのか。先の大戦中、今の自分と同じ世代の若者は何を考え、この日本を守ろうとし命を落としていったのか。

そのことを想うとき、私の心に浮かんでくる言葉、それが「使命」であります。「使命」とは命を使うと書きます。運命と言えど何か決められているもののように感じますが、「使命」とは自分の意志で命を使い、道を切り開いていくということだと思います。私の「使命」とは何であるのか、私はなぜ今この時代を生きているのか。そのことを深く考えさせてくれた団体、それが、私が愛してやまないこの青年会議所であります。

1965年に設立された立川青年会議所。「変化」に対応し「進化」するから存在意義があると考え、失敗を恐れず挑戦し続ける団体。青年経済人として、変えてはならないものは「情熱」をもってその伝統を守り、変えなければならないものは「勇気」をもって仕組みや組織を変化させ、判断に迷うときこそ全員の「英知」をもって、議



論を重ね行動に移す。世界中に共通の理念をもった多くの仲間がいるこの組織の可能性は無限大だと語る。

2017年度、立川青年会議所の運動の根底をなすもの、それが「自利」と「利他」を併せ持った日本人の「和の心」と、地球規模で物事を考える「globalism」という考えであります。私達は、古来より日本特有の協調性を重んじ、集団の中で目に見えない相手の心を読み取り、相手に想いを馳せることで波長を合わせ、争うことなく物事を円滑に進め、調和を図ってきました。私は、この「和の心」が満ち溢れた人々が、世界中でその地域を創造することで、今世界に起こっている多くの紛争はなくなると考えます。日本人のアイデンティティである「和の心」を持つことこそが、青年会議所の不変の理念である「明るい豊かな社会の実現」「恒久的世界平和」につながるのです。

青年会議所の組織は単年制。1年で何をどう動かすのか、1日をフルに使うため、家族や仕事、会社に迷惑をかけることもしばしば。しかしそれを岡部理事長は大切な人のために行うもの、自分の子どもであり家族であり、会社の社員であり、それに携わるすべての人のため。大切な人たちを守るために行っていれば、自ずと地域のため、世のため人のためになる、と言い切る。自分の人生はほんのひと時だからこそ、無駄にしないで行動したい。岡部理事長の1年はもう半年過ぎようとしている。どんな結果が出てくるのか、期待はやまない。



岡部さんは大学時代、体育会サッカー部に所属していた。



家にあってはいいお父さん。岡部さんのお父さま(岡部直士氏)は立川サッカー協会会長。



若い工場長と。製麺・茹麺ライン、食材下処理・調理ライン、トッピング・外装ライン、その他にも食材を扱う工場ならではの設備がある。



働いている人の中にはベトナムやネパールから来ている人も多い。365日24時間稼働しているシフト管理も大変だろうと推測される。



トッピングラインで。



立川青年会議所 第53代理事長 岡部栄一氏



職業は、株式会社ヤマラ 専務取締役。主たる取引先のコンビニエンスチェーンの統合で、現在は関東甲信地域まで製造品の配送をしている。

えくてびあんの輪	
えくてびあんはリストのお店にあります。 今日は 柴崎町・富士見町・緑町 のお店です。	
柴崎町	ひがしミート……………522-6266 (株)正盛堂……………522-2328 小林歯科クリニック……………527-8217 ビューティーサロン ウィスタリア527-1116 オリオン書房 サザン店……………525-3111 WISH BONE……………527-7199 三船クリニック……………523-6693 西武信用金庫 立川南口支店529-1311 たましん 南口支店……………528-2211 リオネットセンター立川……………523-3321 りそな銀行 立川支店……………522-4161 オリオン書房 アレア店……………521-2211 ほっとすべーす 中屋……………522-2932 立川ワシントンホテル……………548-3380 Coffee Shop LARGO……………525-6704 パッケージプラザ カサイ……………522-8601 (株)けやき出版……………525-9909 はじめ治療院……………526-3519 ペーカリー&カフェ BAKU BAKU 527-2721 喫茶 ギャラリー花……………524-3668 髪職人 YOSHIZAWA ……522-5593 のかる……………512-5415 矢沢歯科……………525-6600 ラ・フリーズシュクレ……………525-3513 キッチンコート立川店……………540-1131 LaLaLa……………090-2564-3198 スープ・カフェ なんでもない日 523-5114 武本測量(株)……………524-7731 立川市柴崎市民体育館……………523-5770 NPO 法人 東京賢治の学校 523-7112
富士見町	(株)浅見酒店……………522-2823 伊藤整骨院……………524-7861 手づくりケーキの店 ブティ・パニエ529-8364 さえき 西立食品館……………529-5333 西村歯科クリニック……………519-9501 井上レディースクリニック……………529-0111 中華レストラン 東華園……………529-0458 榎本調剤薬局……………526-2322 有料老人ホーム サンピナス立川 527-8866 飯塚花店……………522-5684 うさぎ専門店 ラッキーラビット524-6054 (株)ホーミー……………522-2220 カフェ・貸しホール ぼくだん畑 522-2214 Café Cuisson……………090-6935-1227 波多野米店……………522-2884 立川市社会福祉協議会……………529-8323 桜井電材(株)……………523-5281 立川市歴史民俗資料館……………525-0860 乙黒東洋整骨院……………523-1859 インテリア アイアイ……………522-5972 たましん 富士見町支店……………528-1741 滝ノ上米店……………522-4019 ESPOA おぎの……………522-4500 建築リフォーム 南日防商会 0120-263-821 (株)立川印刷所……………524-3268 松栄寿司……………524-6958 ふじみ食堂……………523-4791
緑町	国立国語研究所……………540-4300 国立極地研究所……………512-0652

jorakugajo

真如苑提供番組「常楽我淨」

スカパー！：529ch

スカパー！で放送の常楽我淨はスマートフォンアプリ「ivy」(無料)で視聴できます。

J:COM 多摩：111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

おじゃましま〜す！ ――― [53]

若鶏むしり 中央亭

長野県佐久市地域限定グルメの登場です。「とにかく美味しい」という読者の方からの連絡で、すぐ行きました。昨年11月にオープン。若鶏の半身を丸2日間血抜きして、オリジナルのタレに漬けて真空に。3日経ってようやく火を入れます。じっくりオープンで焼くこと50分。余分な脂を落としてこんがりふっくら焼きあがった若鶏は、皮はバリバリ香ばしく、身は柔らかくしっとり。これを手でむしりながらいただきます。骨離れがいい！油を使わない調理法でとってもヘルシー。焼き上がりに時間がかかるので、電話予約をしておくと便利です。若鶏半身むしりは1つ980円。それ以外にもむしり丼 (540円)、手羽先 (1本108円)、ローストビーフ (100 g 734円)、ローストビーフ丼 (734円) があります。手羽先はお酒にも子どものおやつにも。老若男女、みんなにうれしいお店です。4月の始めに伊勢丹で出張販売して広く知られるようになったから混むこと必至。 ネット販売もありますよ、ぜひ！ (お値段はすべて税込です)



ローストビーフ丼
あつあつご飯に85gも載ってます。タレがおいしい！

[54]

Pasta Frolla パスタフローラ 立川南口店

モノレール立川南駅からすぐの場所で16年。ハンバーグもいただけるイタリアン。パスタは生麺と乾麺から選べます。えくてびあんイチ押しは『彩り野菜とレモンオリーブのサラダ生パスタ』。



渡りガニのトマトクリーム生パスタ

やり、そしてモチモチ。これからの時期にぴったりです。やっぱり温かいパスタが好きという方にはこちら。えくてびあんがおすすめするのは『渡りガニのトマトクリーム生パスタ』。スパゲティでも平打ち麺(タリアッテレ)でもお好みで。パスタにからまるソースが濃厚。蟹の風味とコクがいいですね。ランチにはもちろんドリンクバーとランチサラダがつきます。ピザが食べたいとおっしゃる方、ピザもなかなかいい感じです。最近よく見かける石窯とか薪窯とかではありませんが、しっかりもっちり本格派。フチもおいしいピザです。テラス席はベットもOK！

お酒にもご飯にも！



〒190-0013 立川富士見町4-1-2 (立川四小前信号の斜め前)
TEL 042-507-3895
営業時間
11:30～21:00 (LO 20:00)
現在のところお休みはありません。



若鶏むしり
焼き立てはたまりません！

モチモチ生麺が おいしい



〒190-0023 立川市柴崎町2-3-3
TEL 042-540-8033
営業時間
11:30～15:00
17:30～22:00 (LO 21:30)
定休日 無休



冷製パスタ
彩り野菜とレモンオリーブのサラダ生パスタ

街の話題

始まっています『フレームアームズ・ガール』

4月からテレビアニメ『フレームアームズ・ガール』が放送開始されています。えくてびあんがなぜテレビアニメの宣伝?って思われるでしょう。なんと、えくてびあんの名前もエンディングロールに登場しているからです！このアニメ、初回にいきなり立川駅北口ペDESTリアンデッキ、そしてモノレール、オニ公園、立川伊勢屋、いなげや…とこれでもかかっていうくらい立川の街並みがアニメ化されて出ているのです。今後は諏訪神社や梅の湯なども登場予定。見逃しちゃうと寂しいかもしれません。え?えくてびあんはなぜって?こういう場所を制作者の壽屋さんにご紹介したからです。



制作発表会で。監督や脚本、登場人物の役を演じる声優さんたち。

道路、広くなって開通です

武蔵村山市との境界、上砂町の道路がきれいになりました。場所は真如苑グラウンドの南側です。西武線沿線、特に西武立川駅周辺開発は目をみはるほどの速さで進んでいます。すっかりきれいな街並みができて別の市かな?と思うくらい。その一連の開発の中で道路としては第一号の拡幅工事完了、開通となりました。立川市道2級17号線です。工事に協力された団体に立川市から感謝状が贈呈され、テープカット。広い歩道が魅力的です！



写真右側は真如苑グラウンド方向、左側は上砂町



左から大沢純一立川市議会環境建設委員会副委員長、長塚充男真如苑教務長、清水庄平立川市長、萬田和正立川市自治会連合会会長

ジュンク堂さんにあります！

先月号でお知らせしました冊子『立川の研究者たち (国文学研究資料館、えくてびあん共編) 』ですが、「どこで手に入れることができるのでしょうか」とのお問合せを頂戴しております。「国文研まで行くのは大変なのでもっと立川駅近辺で」とのお声に応じて、ジュンク堂高島屋店さんに置いていただくことになりました。実はジュンク堂高島屋店には極地研究所のコーナーもあります。専門書に強いジュンク堂で、立川の研究機関情報をゲットしてくださいね。ジュンク堂高島屋店 立川高島屋6階
TEL 042-512-9910 10:00～21:00

5月28日までです

コトブキヤ本社ビル1階にあるカフェのスイーツがなかなかです。キャラクターものとかアニメ系のカフェはお値段が高いばかりで味が…という声を聞きますが、こちらのスイーツは子どもはもちろん、おとなでもおいしいと思うラインナップになっています。苺のパフェには杏仁豆腐やほんのり甘いゼリー、冷たいアイスクリームに生クリーム。そこにフルーツとパフェの王道という感じです。このサンリオのカフェ『リトルフォレストフェロオ』は5月28日までの限定オープンですよ！
©'15,'17 SANRIO APPR. NO.S575650



ココットに入ったボタンは
チョコレートでできています

表紙の人

ファーレ立川

昭和57(1982)年、立川駅に最も近い基地跡地の再開発事業が始まった。1994年10月に完成した街——現在のファーレ立川である。写真は左に高島屋、右にパレスホテル立川。正面にはこの後シネマ2が建設される。暁の光に浮かび上がるのは、ジャン＝ピエール・レイノーの赤い植木鉢。右側にはマーティン・キッペンベルガーの『街灯』とリチャード・ウィルソンの上れない階段。まだニキ・ド・サンファルの青い椅子はないようだ。20年余の月日は細かった木々を大きくし、人々に憩いを与えている。



写真提供：松田忠明さん

かたこと

◆新横綱に沸いた大阪場所でしたが、すぐに巡業から五月場所へ。多摩地域でいえば、4月22日には八王子市狭間町のエスフォルタアリーナ八王子で、翌23日には町田市総合体育館。5月14日には国技館で本場所の初日です。今度はどんな感動に会えるのでしょうか。来年の立川巡業も楽しみです
ね◆巡業と言えば、立飛駅直結のアリーナも着々と。今秋竣工だそうです。南側には白砂のタチヒビーチが4月28日にプレオープンとか。西武立川駅周辺の開発といい、立飛駅周辺の変化といい、立川に新しい街づくりの波が押し寄せています。立川の賑わいのキーポイントは、西武線、モノレール、JRでしょうか◆賑わいとともに文化面でも注目の立川市。ファーレアートはもちろん、1年に2度アイムホールで行われる立川落語会の発表会は毎回超満員。立見が出ています。この春の発表会は4月29日(土)です。4月からシネマシティでも上質の話を楽しむ定期寄席「ことたま」が始まっています。この様子はまた次号えくてびあんで◆さあ、新年度です。えくてびあんも新しい出会いを求めて頑張ります！ えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ⑨

5月号 第35巻 通巻390号

平成29年5月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL http://www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須 環
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
印刷 三浦印刷株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

Écoutez Bien May 2017 No.390



作ってみました『江戸ご飯』

④

漉粉卵善哉・こおり豆腐

国文学研究資料館所蔵の江戸時代の料理本に書かれてあるレシピを『江戸料理レシピデータセット』として公開、それが現代語になってレシピサイト（クックパッド（江戸ご飯））に掲載されています。そこから今月は「漉粉卵善哉」と「こおり豆腐」をご紹介します。

過去3回連載してきた『万宝料理秘密箱 玉子百珍』からは「漉粉卵善哉」です。こし餡に合わせ味噌を練り混ぜて火を通し、卵の黄身だけ載せてまた火を通す。具材には焼き栗や銀杏、水前寺のりと書いてあるのですが、水前寺のりなんてとても手に入りません。ここではあおさのりを使用しました。葛をひいてもいいのですが、今回はそのまま。餡を合わせ味噌の甘みでいただく、上品な一品でした。これは現代でもぜいたくなスイーツで、江戸時代にはきつと相当高貴な方が召しあがったのではないかな、どんな席でいただいたのだろうなどという想像しながら試食しました。もちろんとても美味しかったです。

さて、冷たいスイーツが欲しいなと思ったら、庶民でもいただける『こおり豆腐』です。豆腐を寒天で固めて黒蜜でいただく簡単レシピ。見た目も涼しくのど越しもいい、これからの季節にはおススメです。賽の目に切った豆腐を並べるのが面倒ですが、製氷皿で丸くしたりハート型に作ったりしたらかわいいかも。今どきは、寒天もいろいろありますし、タピオカの代わりにコナツミルクに入れてもいいかもしれません。江戸時代は面白いネタ満載ですね！豆腐レシピの出典は『豆腐百珍』です。